

令和5年度病虫害発生予察注意報第15号

令和5年12月4日
愛知 県

作物名：トマト

病虫害名：トマト黄化葉巻病

病原ウイルス：Tomato yellow leaf curl virus (TYLCV)

媒介虫：タバココナジラミ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

11月下旬に県内14ほ場で行った巡回調査において、トマト黄化葉巻病の発病株率が1.9%（平年1.3%、前年3.9%）と、過去10年で3番目に高かった。

また、コナジラミ類の成虫寄生枝率が14.3%（平年5.1%、前年14.7%）で過去10年で2番目に高かった。発生ほ場率は50.0%（平年39.9%、前年53.8%）であり、近年高い状況が続いている。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を展張する。やぶれがある場合は必ず補修する。
- (2) 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、成虫を捕殺する。
- (3) 多発すると防除が困難となるため、発生初期に表を参考に防除する。気門封鎖剤を活用するとともに、薬剤抵抗性の発達を防ぐためIRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避ける。
- (4) 農薬を散布する場合は、花粉交配用昆虫への影響日数に注意して薬剤選定する。
- (5) 発病株は見つけ次第抜き取り、適切に処分する。
- (6) 耐病性品種もトマト黄化葉巻ウイルスに感染するため、感受性品種と同様にタバココナジラミの防除を行う。
- (7) コナジラミ類によってトマト黄化病（ToCV）も媒介されるため注意する。



図1 タバココナジラミ（左：幼虫、右：成虫）



図2 トマト黄化葉巻病の発病株

表 トマトのコナジラミ類に対する主な防除薬剤

農薬名	使用時期	使用回数	IRAC コード
ベストガード水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
アグリメック ^{※1}	収穫前日まで	3回以内	6
アニキ乳剤	収穫前日まで	3回以内	6
コルト顆粒水和剤	収穫前日まで	3回以内	9B
アプロードエースフロアブル ^{※1}	収穫前日まで	3回以内	21A, 16
ベネビアOD	収穫前日まで	3回以内	28
トランスフォームフロアブル	収穫前日まで	2回以内	4C
ディアナSC	収穫前日まで	2回以内	5
グレーシア乳剤	収穫前日まで	2回以内	30
サフオイル乳剤	収穫前日まで	—	未（気門封鎖）
サンクリスタル乳剤	収穫前日まで	—	未（気門封鎖）
ベミデタッチ	収穫前日まで	—	UNE*（成虫忌避）

※1 ミニトマトに未登録。

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、

https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

気門封鎖剤は、散布液がコナジラミ類に直接かかると効果がないため、葉裏にもかかるよう丁寧に散布する。ベミデタッチは、殺虫効果はなく忌避効果が主体であるため7日間隔で複数回散布する必要がある。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-62-0085 内線471